

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2021年 第10週（3月8日～3月14日）

## 今週のコメント

～新しい生活様式の実践～ 手洗い、マスク着用、身体的距離の確保、3密の回避が重要

### 定点把握感染症

「RSウイルス感染症 増加傾向続く」

第10週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,191例であり、前週比1.5%減で、前年同週比90%（2020年 第10週 1,329例）であった。

報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、咽頭結膜熱の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ3.68、1.21、0.53、0.37、0.14である。

感染性胃腸炎は前週比2%減の721例で、中河内5.90、大阪市南部5.29、南河内5.06、泉州4.80、北河内4.23であった。

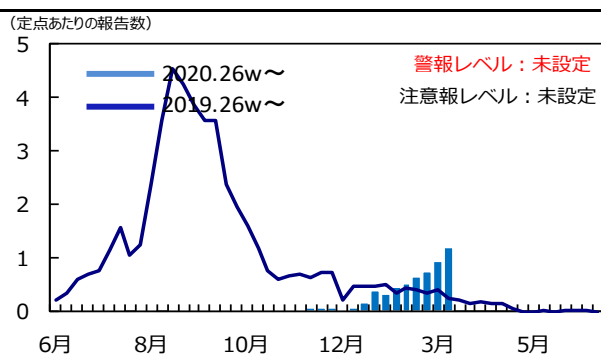
RSウイルス感染症は29%増の238例で、大阪市北部6.50、大阪市東部3.07、南河内1.31である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は33%減の103例で、中河内1.25、大阪市南部1.24、泉州0.75であった。

咽頭結膜熱は7%減の27例で、大阪市東部0.33、大阪市北部0.29、中河内・泉州0.25である。

インフルエンザは3例の報告で定点あたり報告数は0.01であり、昨年同週（2020年 第10週 2,197例）に比して著減した状態が続いている。

RSウイルス感染症



感染性胃腸炎

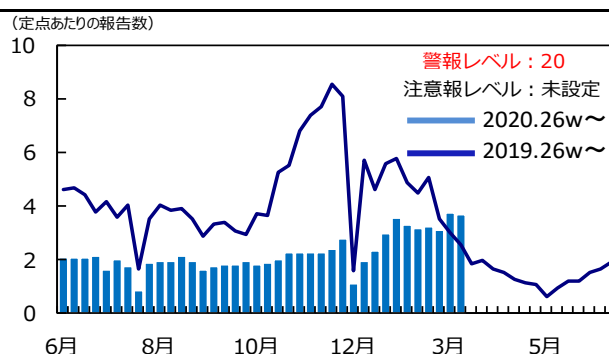


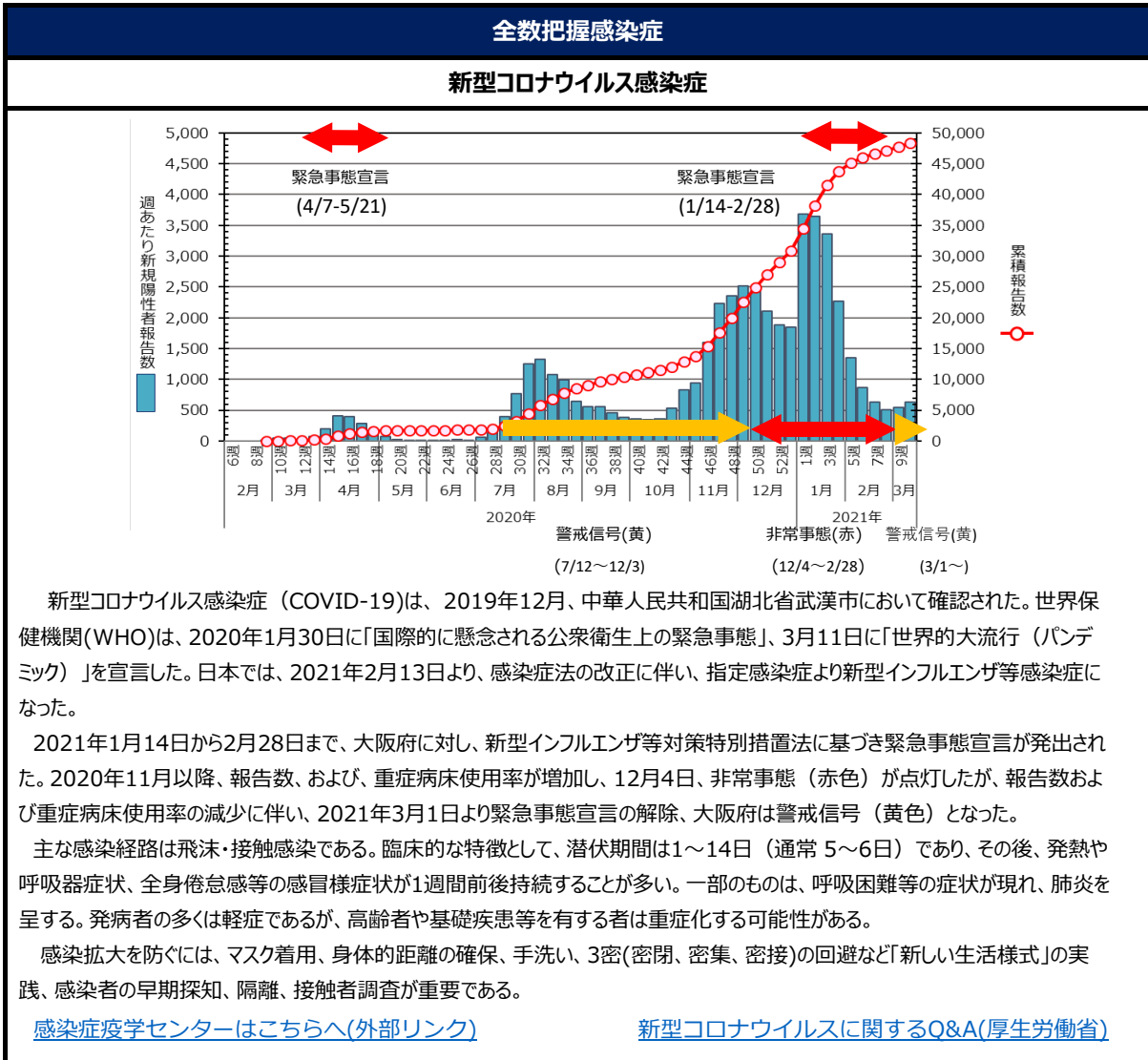
表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2021年 第10週3月8日～3月14日）

第10週の順位	第9週の順位	感染症	2021年 第10週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2020年 第10週の 定点あたり 報告数	2021年第10週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	3.68	2%減	3.02	1歳_16%
2	2	RSウイルス感染症	1.21	29%増	0.40	1歳_31%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.53	33%減	2.19	4歳_19%
4	4	突発性発しん	0.37	26%増	0.24	1歳_49%
5	5	咽頭結膜熱	0.14	7%減	0.30	1歳_44%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.01	50%増	7.32	1歳_3歳_20歳以上 _33%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2020年第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

# 第10週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～ 基本的な予防（マスク着用、身体的距離の確保、手洗い、3密の回避）の徹底を



**表2. 大阪府全数報告数 (2021年 第10週3月8日～3月14日)**

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります  
(報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】発生動向調査>全数報告をご覧ください。)

疾患名 ( )内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症	2								2	15
4類感染症 レジオネラ症(肺炎型)	1							1		13
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1							23
	後天性免疫不全症候群	1							1	12
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1				1				5
	侵襲性肺炎球菌感染症	1							1	10
	梅毒	5	1		1			1	2	130
百日咳	2							1	1	8
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	636	2020年1月以降 累計 48,306							
結核 (2021年1月分)	結核 新登録患者数：69名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 24名) (府内累積報告数 69名、内 肺・喀痰塗抹陽性 24名)									

(2021年3月16日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『11月1日まで』と『11月2日以降』をご覧ください。](#)